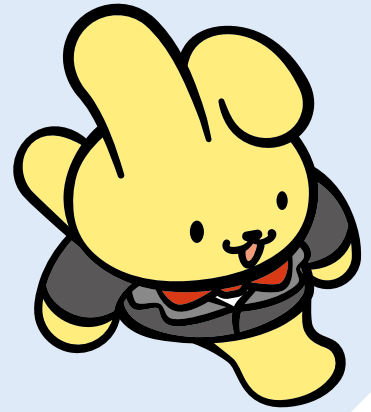


音楽文化専攻

専門的な知識・確かな技術により国内外の舞台において
音楽の感動を表現者として自ら発信するとともに
音楽文化を地域社会に広められる人材を育成します。



▶ 声楽コース

声楽家として基礎を身に付け羽ばたく

▶ 管弦打楽器コース

時代を切り開く新しい学生像を追求

▶ 作曲コース

多彩な音楽の発信者を目指して

▶ 音楽教育・音楽文化コース

世界中の音楽の価値を社会に伝え広める

▶ 鍵盤楽器コース

生きるピアノが世界を広げる

★ 音楽文化専攻 4年間のスキルアップ

1年

音楽・文化の 学びのスタート

幅広い視点から芸術に対する基礎的な知識を身に付けます。そして専門実技のレッスンも1年次からあります。

2年

コースでの 基礎固め

専門実技のレッスンや、基礎的な音楽の訓練のほか選択科目を受講して、芸術の役割を学びます。

3年

より専門的に より実践的に

より専門的な研究や実技の幅広い形態を、実践活動を通して学びます。

4年

理論と実践の 集大成

専門分野での集大成の年です。大きな目標を持ち、卒業演奏・卒業論文に取り組みます。

★ 専攻専門科目

【コース選択科目】

- 弦楽アンサンブル
- 室内楽
- 重唱
- ピアノ・アンサンブル
- 音楽史
- 日本音楽
- コンピューターと音楽文化
- 録音技術実習
- 指揮法
- オペラ舞台文化論
- 身体表現
- 邦楽実習 他

【コース別科目】

- 実技レッスン
 - 声楽
 - ヴァイオリン
 - コントラバス
 - クラリネット
 - ホルン
 - テューバ
 - ピアノ
 - ヴィオラ
 - フルート
 - ファゴット
 - トランペット
 - ユーフォニアム
 - 作曲
 - チェロ
 - オーボエ
 - サクソフォーン
 - トロンボーン
 - 打楽器
- 音楽教育
- 音楽文化
- 音楽理論 他

【専攻共通科目】

- ソルフェージュ
- 合唱
- 合奏（オーケストラ、吹奏楽） 他

声楽第1研究室



大久保 光哉

Mitsuya Okubo

声による感動をあらゆる人に

音楽は、まず声楽から始まったと考えられています。

【歌う】ということは、人間に直接的に結びついた行為です。オペラや演奏会など豊富な舞台経験をもとに、大久保研究室では、声楽のあらゆる可能性を皆さんと模索していきます。オペラ・歌曲など、国や地域、歴史、環境によってその様相には限りがありません。どれをとっても同じものはないのです。だからこそ、興味が尽きないのです。

演奏や研究を通して、それぞれの本質に迫り、自分の身体という楽器から織り成される【声】を使っのコミュニケーションを高めていきましょう。そして、その感動を世界に発信していきましょう。



声楽第2研究室



服部 麻実

Asami Hattori

歌の学びを人生に活かす

人の声は類稀な表現力を持ち、様々な感情を伝えることができます。そして歌には色々なジャンルがありますが、声楽はその人それぞれの美しさや能力を最大限に伸ばすことができ、豊かな感情表現を可能にします。そして歌は言葉を通じて、色々な国の文化を知り視野を広げていくこともできます。研究室では発表会「メローティア」、ロシア音楽の夕べ「ロシアン・ナイト」を開催しています。また社会活動の一つとして、ユニセフ募金の活動を取り入れた「Summer Concert」を実施、社会に関心をもってもらうことも学びに取り入れています。歌の学びはそれぞれに異なりますが、皆さんの様々な「やりたい」「学びたい」に応えていきたいと思っています。



鍵盤（ピアノ）第1研究室



「世界」を支える力となる音楽

研究室では、夢や希望を現実とするために、皆さんが一番幸せに自立していける方法を、4年間をかけて共に築きあげていけるように心がけています。

私自身はフランスで留学経験があり、学生の皆さんの希望に合わせて、海外や国内のコンクールやオーディションでも優秀な成績を修められるよう支援指導をし、これまでに多くの海外留学生や大学の教員等を育ててきました。また、地域社会を支える中学校・高校教員や公務員、音楽教室指導者も数多くいます。

皆さんは、音楽を通して自分の人生や周りの人たちを豊かにして、人として成長し、それを地域社会へ伝えていくことで、小さくても「世界」を支える力となることができます。



鍵盤（ピアノ）第2研究室



音楽を学ぶ。人を知る。自分を生きる。

卒業生も含めて学び合う温かさが受け継がれているピアノ研究室です。みんなでテーマを決める主催演奏会「Blumen」も20回を数え、色とりどりの演奏が喜ばれています。私自身もソロだけではなく国内外の演奏家とアンサンブルの機会を重ねながら、音楽や人と共にある喜びが生きる力にもなりました。変化が加速する時代に、人と繋がり人から学べる力は人生を豊かにするように思えます。あなたには誰かを笑顔にできる力があります。自分なりの目標を見つけて挑戦を楽しみ、未来に向けて自分をしっかり生きることを目指しましょう。



令和 11 年 3 月退職予定

鍵盤（ピアノ）第3研究室



松永 加也子

Kayako Matsunaga

令和8年3月退職予定

音楽の学びを通して人生を切り拓く

本研究室では4年間、ピアノを学ぶことにたくさんの時間を費やしてゆくことになります。実技試験やコンサート、コンクールにチャレンジして、4年間ピアノに向き合いますが、同時に、卒業後の自分の人生においてピアノをどのように位置づけるか、じっくり考える時間にもなります。研究者を目指して大学院に進学する人、ピアノ講師と演奏活動を両立する人、ピアノを続けることも視野に入れて就職を目指す人、それぞれが自分の輝ける道を見出してゆきます。

一人一人が様々なかたちで、これからの音楽文化を支えてゆく人材として、羽ばたく手助けをしたいと考えております。



作曲第1研究室



阿部 俊祐

Shunsuke Abe

新しい音楽を創造する

作曲第1研究室では、新たな音楽を創造するための作・編曲理論と実習を研究しています。芸術音楽分野では特に近現代フランス音楽を中心に研究をしており、主に音楽作品として研究成果を発表しています。芸術音楽分野だけにとどまらず、吹奏楽や映像音楽などジャンルは多岐に渡ります。教育としては曲を作るだけでなく、DTMや楽譜制作などの専門技能の習得も目指し、卒業後は広く作編曲家として活躍したり都内音大大学院や海外留学などに進学する卒業生も多いです。



作曲第2研究室



北爪 裕道

Hiromichi Kitazume

音楽の可能性を、広く深く

多種多様な音楽やパフォーマンス、情報やツールが溢れている昨今、作り手には、幅広い視野をもちつつも本質を見極めながら自分で音楽を考えられる力がいっそう大切になってきています。音楽について深く知り、感性を磨きながら、興味のある領域はどんどん深めて一緒に音楽で冒険しましょう。

岩見沢校には、クラシック音楽の技術はもちろん、コンピュータ音楽やテクノロジー、様々な文化を学び実践できる環境があります。周りには音楽仲間がたくさんいて、大編成の曲を演奏できる機会も。

皆さんの挑戦を応援・サポートします。



金管楽器(ユーフォニアム)・合奏研究室



渡部 謙一

Kenichi Watanabe

エンタメではない「ガチの」吹奏楽・管楽器アカデミズムへようこそ!

世の中はAI全盛の時代に入りました。これからは、今まで人間が行ってきたことのかなりの部分がAIに置き換わることでしょう。そういう中であって、人間が作った理論的構築性によって生まれたAIと生身の人間の共存を考えることが重要になります。ラッパや笛を吹くロボットが出てくる日も遠くないでしょう。であったとしても私たちの「感覚」では、音楽の演奏は人間が行わないと「価値がない」と感じている人たちが多数いると思われます。この観点を踏まえ、管打楽器を演奏するということの意義・意味を考え、これから生きる世代の人たちがどのように自分たちの感性を発展させていくかを考えることが重要ではないでしょうか。



弦楽器（ヴァイオリン）・合奏・室内楽研究室



長岡 聡季

Satoki Nagaoka

北海道から世界へ音楽を発信

2019年に本校学生によるアンサンブルを率いて、ドイツへの演奏旅行を主催しました。本場の聴衆の前での演奏や、現地での研修や生活を通して、ヨーロッパに発祥したクラシック音楽を肌で感じる、素晴らしい機会となりました。長岡研究室では、弦楽器が含まれる多様なジャンルの作品を対象に、演奏や研究を通して作品の本質に迫ることを最も大切にしています。演奏家や指導者としてのスキルを高めることはもちろん、小・大編成のアンサンブルを通してコミュニケーション能力を磨き、世界へと発信していきましょう。



音楽文化研究室



岩澤 孝子

Takako Iwasawa

音楽文化から多様性を学ぶ!

音楽文化研究室のキーワードは「国際」、「アジア」、「コミュニティ」、「身体」、「創造性」です。特徴的な取り組みとしては、音楽・舞踊公演を含むタイとの国際交流事業があります。現代は多様な価値観を身につけることが求められています。世界の多様な音楽文化を手掛かりに互いに刺激し合い、自由な発想で「他者とコミュニケーションする力」や「コミュニティの課題解決力」を養います。ここで深めた学びを生活や社会へ還元する力を持つ人材育成を目指しています。





金崎 惣一

Soichi Kanazaki

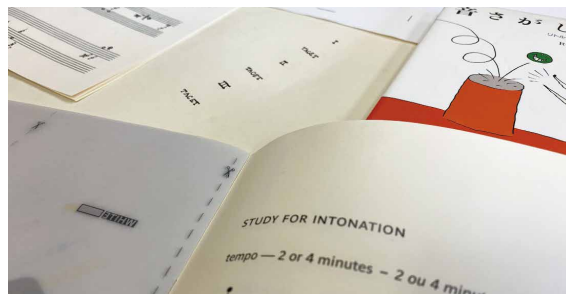
身近な音から考え、実践する

「音楽」とはなんですか？

「音楽」という言葉からどういった音を思い浮かべますか？

音楽教育研究室では、カナダの作曲家であるR. マリー・シェーファーが提唱した「サウンドスケープ（音の風景）」および「サウンド・エデュケーション」をベースに、私たち自身と身の回りにある様々な音響との関係や、音を「きくこと／つくること」の関わりについて、音楽教育をはじめとして領域横断的な探求・実践を行っています。

学校での音楽教育にとどまらず、地域社会へと活動の場が展開していく音楽教育学について学んでみませんか？



Graduate

卒業生インタビュー

2021年度 管弦打楽器コース 卒業生

高橋 太一郎

就職先 → 横浜市立戸塚高等学校（横浜市公立学校中高枠採用）



音楽文化専攻としての大学生活は本当に濃い時間でした。私の専攻していた「音楽」にとことん向き合い鍛錬を重ねることができました。先生や講師の方々の指導と支援が手厚く、「頑張りたい!」「極めたい!」と思ったことをあきらめることなく取り組むことができました。また、他専攻（音楽文化専攻以外）との関わりも思い出深いです。最初は初めて会う人ばかりでとても緊張していましたが、全く異なる専攻の学生と関わりをもつことで、様々な考え方や感性が磨かれました。

大学時代は、音楽の知識や技能はもちろんのこと、目標までの過程でどのようにアプローチしていくか考え実践する力が身についたと思います。大学の授業として実施された演奏会、自主企画の発表会など、忙しい日々の中でどのように取り組み、目標を達成していくかということは何度も経験することができました。教員として働きながら、ソロやデュオ、カルテットでのリサイタルを開催するなど、演奏活動を行うことができているのは、大学時代にキャパシティの限界を決めず、「や

りたい!」と思ったことを全力で頑張っていたからだと思います。また音楽教育についても、芸術の神髄のようなものについて、よく考え実践的に学ぶことができたからこそ、教育現場で活かすことができている。

私自身、他大学を受験し落ちて、1年間の浪人生活を経て岩見沢校に入学しました。大学在学中も現在も、「ここ（岩見沢校）で良かった!」と強く思っています。大学でどのような頑張りをするかはもちろん大切だと思いますが、大学を選択できるのであれば環境が整っているところへ進学してください。人それぞれ大学や将来に求めるものは違うと思いますが、岩見沢校はきっとそれが叶います。正直、「都会の大学で華のキャンパスライフ!」とは少し違うかもしれませんが、岩見沢校は、専攻分野に集中して深い学びが実現できる大学（キャンパス）です。充実した大学生活と未来が待っているはずですよ!応援しています。

Interview

在校学インタビュー

出身校：北星学園女子高等学校

→ 音楽文化専攻 鍵盤楽器コース 4年

小出 みなみ



Q1. どうして岩見沢校に入学したの？

①音楽が学べること ②家から通えること ③国公立であること

この3点が主な理由です。音楽科のある高校を選びピアノを学んでいたため、そのまま大学でも音楽を学び続けたいと思い、岩見沢校を選びました。高校1年生の時から目指していたため、実技はもちろんソルフェージュや初見演奏などの入試対策も時間をかけて念入りに行いました。

Q2. 今どんな活動をしているの？

ピアノ演奏と伴奏に力を入れています。専攻であるピアノは日々の練習の成果が報われ、6月の「学内ソロ選抜演奏会」に出演します。

伴奏は1年生の頃から積極的に続けています。同時期に最大11人の伴奏を受け持ったこともあり、私にとって伴奏をさせてもらうということはとても大きな学びになっています。他の楽器のレッスンについて行き、音楽を学べることはとても貴重な経験です。自分の練習以外に伴奏をするということは正直大変ですが、それを上回る楽しさがあります。誰かと音楽を創り上げる瞬間に関われていることはとても幸せであり、全ての経験が自分の音楽に良い影響を与えています。

Q3. 卒業後は何をする予定？

現段階では就職したいと考えていますが、まだ未定です。働きながらも趣味としてピアノを続けていきたいと考えています。また、卒業後も他の楽器の伴奏をしたいという願望があるため、いつかどこかで演奏できればいいなとも思います。

Q4. 今まで受けた中で面白かった授業は？

専攻実技の授業です。1年生の時から野呂佳生先生にご指導いただいています。最初は悪戦苦闘したことを覚えています。今までは「言われたことをできるように」という受動的なレッスンでしたが、野呂先生のレッスンでは「自分でどう弾きたいかを考えて、それを実践して先生に見ていただく」という主体的なレッスンに変わりました。今自分が練習している方向性が間違っていないか、これで良いのかという不安が残つつも毎週レッスンを受け、少しずつ成長できたように感じます。

先生にご指導いただけるのもあと一年。どこまで自分を伸ばせるかできる限りやってみたいと思います。

受験を考えている皆さんへメッセージ

岩見沢校は他の音楽大学に比べて人数が少ない分、様々なチャンスがあります。伴奏、室内楽、演奏会の出演など、自分から動けば入学前には思ってもいなかったさまざまな音楽経験を積むことができます。ぜひ岩見沢校に入学して想像以上の経験をしてみませんか？入学を心待ちにしております。



定期演奏会実行委員長として挨拶をしている様子



11人の伴奏をした際の楽譜

Admission Information

入試情報 《音楽文化専攻》

★ 募集人員・選抜方法・配点

	募集人数		選抜方法	配点	
学校推薦型選抜 (一般)	14		実技検査		
			面接 / 15分程度		
一般選抜 (前期日程)	声楽	3	大学入学共通テスト	500	1,500
	鍵盤楽器	8			
	作曲		実技検査	1,000	
	管弦打楽器	8			
	音楽教育・音楽文化	3			
一般選抜 (後期日程)	4		大学入学共通テスト	500	1,500
			実技試験	800	
			面接 / 15分程度	200	

★ 各選抜の実施方法等 参考：Q&A (P50)

学校推薦型 選抜(一般)

学校推薦型選抜(一般)への出願は、「学生募集要項」に記載の出願要件を満たし、高等学校の推薦を受けることが条件となります。事前に提出する「自己推薦書」等の書類と、試験当日に課す「実技検査」、「面接」により総合的に評価し、コースにかかわらず総合得点の高得点順に選抜します。大学入学共通テストは課されません。

1. ソルフェージュ

- (1) 聴音 (2) コールユーブンゲン (3) 楽典

2. 主実技

- (1) 声楽コース …… 自由曲
 (2) 鍵盤楽器コース …… 自由曲
 (3) 作曲コース …… 自作品の提出 / 「和声ソプラノ課題」または「和声バス課題」
 (4) 管弦打楽器コース
 管楽器：音階 / 自由曲
 弦楽器：音階 / 自由曲
 打楽器 (小太鼓、マリンバの中から一つを選択)：基礎課題 / 自由曲
 (5) 音楽教育・音楽文化コース … 自由曲 (ピアノ、声楽、和楽器、民族楽器の中から一つを選択)

3. 面接

一般選抜

■ 大学入学共通テスト

必要科目は国語と外国語が必須、数学・地歴公民・理科・情報の中から1教科選択の、3教科3科目です。

■ 前期日程

前期日程の実技検査の内容は、音楽に関する基礎的な知識・能力に加え、専門性、表現力などを総合的に測る課題となっています。

1. ソルフェージュ

(1) 聴音 (2) 新曲視唱 (3) 楽典

2. 主実技等

- (1) 声楽コース …… 課題曲／自由曲／副実技（ピアノ又は管弦打楽器のいずれか1つを選択）
 (2) 鍵盤楽器コース …… 指定された曲集から任意の1曲と、指定された曲集以外の任意の1曲
 (3) 作曲コース …… 和声ソプラノ課題／和声バス課題／自作品の提出／口頭試問／副実技（声楽、ピアノ、管弦打楽器のいずれか1つを選択）
 (4) 管弦打楽器コース
 管楽器：音階／課題曲／自由曲／副実技（ピアノ：J.S.バッハ作曲 インヴェンションとシンフォニアより任意の一曲）
 弦楽器：音階／課題曲／自由曲／副実技（ピアノ：J.S.バッハ作曲 インヴェンションとシンフォニアより任意の一曲）
 打楽器（小太鼓、マリンバの中から一つを選択）：基礎課題／自由曲／副実技（ピアノ：J.S.バッハ作曲 インヴェンションとシンフォニアより任意の一曲）
 (5) 音楽教育・音楽文化コース …… 音楽に関する基礎的試験／ピアノによる自由曲（自作の演奏、弾き語りも可能。和楽器、民族楽器の弾き語りも可能）又は、自己表現（音楽文化に関するプレゼンテーション又はダンス等の身体表現を含む）

■ 後期日程

後期日程では、基礎的な音楽能力をソルフェージュの試験で見ることで、主実技で自由曲が中心になっていることが特徴です。また、面接も課し、入学後の勉学意欲や、音楽技術についての意欲・関心なども含めて総合的に評価します。

1. ソルフェージュ

(1) 聴音 (2) 新曲視唱

2. 主実技

- (1) 声楽コース …… 自由曲
 (2) 鍵盤楽器コース …… 自由曲
 (3) 作曲コース …… モチーフを与えての作曲／和声バス課題
 (4) 管弦打楽器コース
 管楽器：音階／自由曲
 弦楽器：音階／自由曲
 打楽器（小太鼓、マリンバの中から一つを選択）：基礎課題／自由曲
 (5) 音楽教育・音楽文化コース …… 自由曲（ピアノ、声楽、和楽器、民族楽器から一つを選択）

3. 面接

★ 過去の入試問題

【令和7年度 一般選抜（前期日程・後期日程）実技検査】

令和7年度 北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科
音楽文化専攻 一般選抜（前期日程）
ソルフェージュ 新曲視唱

令和7年度 北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科
音楽文化専攻 一般選抜（後期日程）
ソルフェージュ（聴音） 実技検査問題

過去の試験問題は本学ホームページの「入試情報」で公開されています。

<https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/faculties/exam/data>



■ ソルフェージュとは

ソルフェージュの試験には大きく、聴音（単旋律、4声と音）、新曲視唱、コールユープンゲン、楽典の4科目があります。いずれの科目も、大学で音楽を学ぶ上で最低限必要な基礎となるものです。できるだけ早い時期から準備を始めることをお勧めします。

- ▷ 聴音は、ピアノで演奏された音を聴き取って楽譜に書き記す試験です。岩見沢校の試験では長さが8小節程度で、単旋律と、連続する4声と音の2種類があります。調や拍子、演奏回数や演奏前の基準音の与え方などは当日発表されます。
- ▷ 新曲視唱は、当日与えられる旋律を予見の後に視唱する試験です。予見時間は当日指示されます。コールユープンゲンは、曲集の中から当日指定される1曲を歌唱する試験です。いずれも歌唱開始前に主和音や開始音などの基準音がピアノで与えられます。
- ▷ 楽典は、音程、拍子、調、音階、楽語等に関する筆記問題です。試験時間は当日指示されます。

※入試情報ページに記載の内容は前年度実施した内容であり、今後変更になる可能性があります。必ず大学ホームページや、「入学者選抜要項」「学生募集要項」で最新の情報を確認してください。